

日本とボルネオの関係を通して、「便利な生活と自然を守る」を考える！！

(持続可能な社会を作るには?)

6年理科・総合・国際理解の 教材に、ボルネオを。

1, ボルネオって?

日本から、直行便で5時間半でいける熱帯雨林(ジャングル)です。この島は、3つの国(マレーシア・インドネシア・ブルネイ)から成っています。

熱帯雨林は、世界の土地の7パーセントですが、生き物は半分以上とも言われています。まだ、名前の確認されていない生き物や植物もあるそうです。豊かな生き物のすみかです。他にも、熱帯雨林は、「世界の肺」といわれています。二酸化炭素を吸って酸素を出す、大切な役割を果たしています。

熱帯雨林の役割

- ① 生物の多様性 (いろいろな生き物がすむ。)
- ② 世界の肺 (二酸化炭素を吸って、酸素を出す)
- ③ 保水の力 (たくさんの雨がふり、木が水をためてまた雨を降らす。)
- ④ まだ未開の植物や生物があり、医薬品につながる可能性がある

参考: エドワード・パーカー著 WWF ジャパン監修『熱帯雨林の植物』

(すずき出版)



日本から、5時間半。意外と近いジャングルです。



横塚眞己人著『ゾウの森とポテトチップス』(そうえん社)より

いろいろな高さの木が生えています。そこが、生物多様性の秘密です。

熱帯雨林は、いろいろな環境を作り出しています。高い木は、90メートルを超えています。熱帯雨林の上は、開けた樹林・中間・下の層・木下の湿地に近いところといろいろな生息条件に、たくさんの生き物が棲みかを作っています。

2, ジャングルの豊かな動植物



オランウータン・ボルネオゾウ・サイチョウなどの、大型の生き物が絶滅しそうになっています。シロサイチョウも、1種もある大きな鳥です。



1本の木に着生植物が10種類以上



木に、直接実がなる植物。



ウツボカズラの種類
食虫植物



とにかく植物が大きい。



世界一大きな花「ラフレシア」1つ近い花も。



色鮮やかなカワセミの仲間

3、安くて便利な生活は、彼ら（オランウータン・ゾウなど）の生活を奪っている

今 熱帯雨林は、すぎまじい開発にあっています。はじめは、加工のしやすい熱帯雨林の材木を日本が買いました。建設資材として日本に入り、コンクリートパネルになりました。他にも、ベニヤでできた3段ラックなどになり安い材料として買われています。



コピー用紙も、インドネシア産の木のチップが入ってきているものがあります。

(熱帯林行動ネットワーク JAPAN)

コンクリートを、型にはめる板に使われます。日本のコンクリートのビルや学校の多くは、このパネルを使ってできています。オリンピックの建設資材にも、すでに入っています。NHK クローズアップ現代でも、紹介されていました。

木を切り出した後のジャングルは、パームヤシ畑になります。そのほかにも、ジャングルを切り開いて、木々を焼き払います。焼いた場所に、パームヤシを植えます。パームヤシからは、2つの油がとれます。ポテトチップスや焼きそばなどを揚げる油、石けんなどの油がとれます。私たちの生活で、これらの油を1日もとらない日はないと言われています。日本人は、一人年間5キロとっています。パームヤシは、優良な植物油です。たくさんとれて、安いです。